

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農業費 項：農業振興費 目：主要農作物対策費

事業名 需要対応型ぎふ米産地ブランド確立支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111 (内 2863)

E-mail： c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,710 千円 (前年度予算額：3,390 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,390	330	0	0	0	0	0	0	3,060
要求額	3,710	1,330	0	0	0	0	0	0	2,380
決定額	3,710	1,330	0	0	0	0	0	0	2,380

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

人口減少や食生活の変化により主食用米の需要が減少している中、米卸業者等の実需との結びつきの強化に向けて、利用者（食品産業等）のニーズに合わせたオーダーメイド型の産地づくりを推進する必要がある。

併せて、多収性品種の生産拡大と省力・低コスト栽培技術、ICT技術などを活用した良食味栽培技術の確立・普及により、米生産者の所得向上が必要である。

(2) 事業内容

- オーダーメイド型米づくりによる産地創出
 - ・産地と実需が連携した県育成系統「岐系 207 号」の生産体制と技術確立
 - ・米粉用専用新品種「こなゆきひめ」の産地創出
- 多収性のある県奨励品種「ほしじるし」の栽培技術の実証
 - ・栽植密度、密苗栽培技術、直播栽培等の導入
- 良食味・高品質な米栽培技術の強化
 - ・衛星画像により産地全体の生育状況を把握し、適期収穫など食味向上に資する栽培管理体系の確立
 - ・輸出用日本酒原料にもなりうるよう、酒造好適米「ひだほまれ」の高品質米生産に向けた施肥体系の確立

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・主食用米の需要が減少する中、実需と結びついた生産・販売や需要に応じた米生産を推進することは、ぎふ米の安定供給につながることから、県負担は妥当である。
- ・国の持続的生産強化対策事業のうち、生産体制・技術確立支援事業を活用。
(補助率：国費 10/10)

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	50	講師謝金
旅費	518	業務旅費、依頼旅費
需用費	630	実証消耗品費、調査燃料費等
役務費	728	郵便料、電話料、データ利用料
委託料	1,515	味度計検定、実証業務、品質分析など
使用料	66	会議室使用料など
備品購入費	203	会議室使用料など
合計	3,710	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

新たな「ぎふ農業・農村基本計画」

Ⅱ 安心で身近な「ぎふの食」づくり

3 重点施策「水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開」

・オーダーメイド型米づくりの推進

(2) 国の状況

「食料・農業・農村基本計画」(令和2年3月31日閣議決定)

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

2. 農業の持続的な発展に関する施策

(6) 需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化

③ 米政策改革の着実な推進と水田における高収益作物等への転換

ア 消費者・実需者の需要に応じた多様な米の安定供給

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・米の消費量が減少傾向にある中で、需要に基づく新たな米の産地づくり、農業者の所得向上に繋がる米づくりを推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
		(H29)	(H30)			
奨励品種に位置付ける多収性品種	— (H26)	— (H29)	— (H30)	385ha (R1)	1,000ha (R7)	38%
米の食味ランキング (美濃ハツシモ)	A (H26)	A (H29)	特A (H30)	A (R1)	特A (R7)	66%
米の食味ランキング (美濃コシヒカリ)	設定なし (H26)	特A (H29)	特A (H30)	A (R1)	特A (R7)	66%
米の食味ランキング (飛騨コシヒカリ)	特A (H26)	特A (H29)	A (H30)	特A (R1)	特A (R7)	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ◆良食味米の栽培方法の確立
施肥・管理等、良食味栽培実証ほの設置（4カ所）
 - ◆食味評価者育成研修会の開催
第1回研修会：12月
 - ◆衛星画像を活用した米のタンパク含量等の推計分析
調査地区：下呂市、白川村

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
土づくり資材の施用など食味向上に寄与する実証試験を実施するとともに、米の食味評価に関する知識を向上する研修会の開催等により、令和3年2月発表の米の食味ランキングで、「美濃ハツシモ」、「美濃コシヒカリ」、「飛騨コシヒカリ」の特A獲得を見込んでいる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	米の消費量が減少傾向にあるなか、需要が伸びている米生産の拡大、県主食用品種の良食味栽培技術の確立普及が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	米の需要減少が進むなか、食と農の繋がりの深化、農業所得の増大に資する取組であることから、本事業の有効性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	計画や進捗状況、取組成果について関係機関と検討を図るとともに、必要に応じて、生産者団体等と連携し、技術確立の効率化に努める。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・需要に基づく米産地づくりの加速化、「特A」評価維持のためのICT技術を活用した食味向上技術の強化が必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・実需者等との結びつきの強化による米の販路拡大と安定供給の推進。 ・食味、品質や生産性の向上を図る栽培技術の確立普及。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】
--	-------